

会 議 録

会 議 の 名 称	平成26年度第4回行財政改革推進委員会
開 催 日 時	平成26年10月25日(土)10時00分から12時10分まで
開 催 場 所	吉川市役所 202会議室
出 席 委 員 氏 名	大塚祚保委員長、間宮玲子副委員長、伊藤博章委員
欠 席 委 員 氏 名	なし
担当課職員職氏名	政策室副室長 中村詠子、政策室行政改革担当主査 櫻井敬雄 政策室行政改革担当主任 松井 勉
会 議 次 第 及 び 会 議 の 公開又は非公開の別	1 開会 2 あいさつ 3 議事 第4次よしかわ行財政改革大綱及び推進プラン策定について 資料1：「第4次よしかわ行財政改革大綱」体系図（柱立て）の 検討 資料2：個別改革項目一覧表 4 その他 5 閉会 すべて公開
非 公 開 の 理 由	なし
傍 聴 者 の 数	0名
会 議 資 料 の 名 称	次第、座席表、議案書、参考資料
会 議 録 の 作 成 方 法	<input type="checkbox"/> 録音テープを使用した全文記録 <input type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 要点記録
会 議 録 確 認 指 定 者	大塚委員長、間宮副委員長
そ の 他 の 必 要 事 項	なし

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、決定事項等）	
1 開 会 司会（櫻井主査）	<p>————— 《開 会》 —————</p> <p>ただ今より、平成26年度第4回行財政改革推進委員会を開会する。</p>
大塚委員長	<p>————— 《あいさつ》 —————</p> <p>秋の行楽シーズンのすばらしい天気の中での委員会となるが、よろしく願い申し上げます。</p>
司会（櫻井主査）	<p>————— 《議事審議》 —————</p> <p>それでは、これより議事に入る。議事の進行については、大塚委員長に願います。</p>
大塚委員長	<p>それでは、議事「第4次よしかわ行財政改革大綱及び推進プラン策定について」について、資料に沿って検討していく。資料について、事務局より報告をお願いします。</p>
松井主任	<p>資料1と2について説明。主に、これまで第3回までの決定事項の確認と、市役所内で行った改革項目の検討結果について説明。</p>
大塚委員長	<p>個人的には資料1の図について疑問がある。今回の63事業の改革項目は、4つのスクリーンをベースに改革項目を出してもらっている。そうすると4つのスクリーンと改革項目の位置付けの関係が分かりづらいのではないかと。</p> <p>もう1つの疑問は、我々は行革という角度から見ているが、企画部門でも財政部門でも、将来都市像の実現に向かって進行管理を行っていると思う。そこで、それぞれが進行管理をした場合に、ブレが生じることはないのか。3者が調整して、各事業の進行管理を行えばいいと思うが、そうしたことはやっているのか。</p>
伊藤委員	<p>民間ではコーディネーターを配置して全体を調整して進めているから、きちっとしたものができている。</p>
中村副室長	<p>吉川市総合振興計画があって、その下に基本計画があって、さらにその下に実施計画がある。実施計画で全ての事業を網羅し、調整している。そこに掲載されないと財政課での予算化が行われない。事業の採択については、企画部門で行い、お金の配分については、財政部門で行っている。その事業の行財政改革的なことは行革部門で行っている。確かに、3者が別々に行っているが、</p>

	<p>この行財政改革推進委員会で全体の取りまとめをしていきたいと考えている。</p>
伊藤委員	<p>コーディネートをする人間は、庁内にいて、内容が分かっている人でないと効果がない。また、資料1の図の表し方では、(1) 将来都市像の下に、(2) まちづくりの基本理念がきて、その下に(4) 改革項目がくる形でいいと思う。その改革項目は、健全財政などの4つのスクリーンを通したものであると説明があれば、良いと思う。</p>
大塚委員長	<p>改革項目による大柱や中柱は、(2) まちづくりの基本理念の下にきた方が分かりやすい。4つのスクリーンを集約したものが、改革項目として出てきている。</p>
松井主任	<p>4つのスクリーンをそのまま大柱としたらどうかと考えてみたが、改革項目のほとんどが、健全財政か市民主役に含まれてしまうため、4つのスクリーンを通した改革項目として、それらを性質別に事務局案として分類してみた。</p>
伊藤委員	<p>選択と集中は、このなかでは、異質なものであるため、大柱にするには難しい。</p>
中村副室長	<p>改革項目は4つのスクリーンを通ったものであるため、それらの事業を性質別に分かりやすく分類したものである。体系案については、まだ変更の余地はある。</p>
大塚委員長	<p>とりあえず、資料1の大綱の体系図についての議論については、これくらいにして、次の各改革項目について議論を進めたいと思う。資料1の図については、後で、改革項目をまとめる段階で、再度議論したいと思う。</p> <p>では、別紙2より、各改革項目について、何か意見があったら、お願いしたい。</p>
伊藤委員	<p>No.1について、ふるさと納税制度で市内商工業の活性化とあるが、吉川市では、農業に対する支援は多いが、商工業への支援が少ないように思われる。このようなアンバランスを考える必要もある。この辺が変わっていくならいいと思う。</p>
中村副室長	<p>各地で様々な特典をつけたりしている。ふるさと納税の拡充に</p>

	<p>よって、市内の農産物・商工産物の活性化につなげられればと考えている。</p>
大塚委員長	<p>本来、ふるさと納税は、地方出身で東京などに出てきた人が、生まれ育ったふるさとへ寄付するものであるため、制度の趣旨と違ってきている。</p>
伊藤委員	<p>No.2とNo.3について、広告入り行政情報案内板とネーミングライツの導入とあるが、広告主の不祥事などのリスクにはどう考えるのか。市のイメージダウンにならないようにしてほしい。</p>
松井主任	<p>民間会社と確認書を交わす際に、そうした事項について、取り決めの上、実施していきたいと考えている。</p>
伊藤委員	<p>例えば、体育館にネーミングライツを導入した場合に、企業名の体育館名となることで、市民が使用しにくい名称となることは避けなければならない。</p>
中村副室長	<p>施設名はあくまで愛称として命名していくこととなる。今後、いろいろと研究していきたい。</p>
大塚委員長	<p>No.8の水洗化率の向上とは、どういうものか。</p>
櫻井主査	<p>下水道において、下水道管は整備されているが、接続の費用が多額にかかるために、一部接続されていないところがある。新規住宅については、義務的に接続をしているが、未接続のところの接続率を高めていくものである。</p>
間宮副委員長	<p>市の財源で下水道を敷設し、下水道へつなぐことは、条例上、義務となっているにも関わらず、そこへ接続していない人が一部いる。これは、接続している人からすれば、不公平である。個人の問題ではなく市として考えていかななくてはならない問題である。</p>
伊藤委員	<p>No.5～7を一緒にしてチームとして任せることはできないのか。</p>
中村副室長	<p>現在、債権回収担当として設置できないかどうかを検討しているところである。市税と国保税徴収をそれぞれ担当で徴収を行</p>

	<p>い、それでも残ってしまった部分を債権回収担当が徴収していくことを見込んでいる。</p>
伊藤委員	<p>一本化できるものは一本化していった方が効率的である。歳入増加では、市内の産業を活性化する取り組みがほしい。</p>
間宮副委員長	<p>農業振興として、新鮮な野菜を販売したりする道の駅などが考えられる。杉戸町の「アグリパークゆめすぎと」などでは、特に、休日に人で賑わっている。</p>
伊藤委員	<p>若者のなかに自分で起業をしたいと考えている人はいると思う。そういう人に、場所を提供して、起業への道筋をつけてあげる施策があってもいいと思う。</p> <p>No.14～17の照明器具のLED化については、思い切って、道路照明も含めて、市全体で進めていくべきだと思う。別々に進めていくと手間代の方が多くかかる恐れがある。</p>
中村副室長	<p>防犯灯は、現在進めている。企業に委託して、交換から管理までを委託するものである。その他の施設も含めて、LED化によって効果がある施設については、市全体的に計画に含めていく。</p>
伊藤委員	<p>No.10と11についてであるが、民間が行うことによって経費が下がるということは、公務員が実施した場合に、なぜ費用が高くなるのか。人件費が高いのか、それとも間接費が高いのかといった議論をもっとするべきである。公務員ももっと経費を削る努力が必要である。</p>
松井主任	<p>市の窓口においても、臨時職員で対応できる部分については、臨時職員を配置するなどコストの削減を図っている。今回のNo.10と11は、民間に委託することにより、コストが同じ場合には、さらなる高サービスを求めたり、同サービス水準であるなら、コストを削減していくことを目的とするものである。</p>
間宮副委員長	<p>窓口には市役所職員にいてほしいと思う。委託先の人も信頼できる人とは思われるが、窓口は市民と対面するところである。数字の管理などは委託しても構わないが、せめて窓口は職員でお願いしたいと思う。</p>
伊藤委員	<p>市民の生の声を聴ける場所は、窓口だけである。</p>

大塚委員長	完全に民営化するのか。
松井主任	窓口の外部委託化の例で他自治体で行っているのは、フロント部分を委託し、バック部分に正職員を数人配置しているものである。
伊藤委員	No.18については、非常に大きなプロジェクトであるため、これは、真剣に進めていただきたい。
大塚委員長	以前、話題になった日本創成会議の人口問題では、若年層の女性が減少していく自治体は、消滅自治体として説明されていた。市民の増加については、根本的に必要な策であろう。
伊藤委員	No.19、20、21については、LCCの問題をきちんとやっていこうという同じようなことを言っているのか。
櫻井主査	公共施設マネジメントとしてやっていく財政の平準化の部分と現金主義で行っている財政の会計の部分であるため、異なっている。下水道会計は公営企業法に伴うもので、発生主義を導入しようというものである。
伊藤委員	No.20、21の導入時期が異なるが、これを足並み揃えて行わないのか。同時にした方が効率的ではないか。
松井主任	総務省の導入期限の違いによるものである。河川下水道課において、導入時期を早めることが可能であるなら、財政課と同時にする方が望ましい。
櫻井主査	企業会計は、既に上水道で実施しているため、ある程度のノウハウはあるが、一般会計については、まだ詳細の部分が明らかになっていないしこれからだと思う。
伊藤委員	単年度会計から複数年度会計となるのか。
櫻井主査	地方自治法で単年度の規定となっていることから、そこまでは議論していないと思われる。ただ、財政運営上は、複数年度を考慮した管理になっていくと思う。

伊藤委員	No.22から32の施設のアウトソーシングについては、もう少し具体的な年度を定めていくことはできないのか。現プランでも項目として挙げており、いつまで検討をしているのか。
松井主任	アウトソーシングについては、現プランにおいて、方向性が決定していない施設を挙げている。次期プランにおいては、アウトソーシングをするべき施設なのかを含めて、導入時期まで決定していきたい。
中村副室長	アウトソーシングについては、窓口を一本化して進めていくことも必要であると思う。
伊藤委員	No.36については、公募型のプロポーザル方式で発注するのはすばらしいことだが、採用した経緯をもっと細かく市HPに公開してほしい。
伊藤委員	No.39については、「わかりやすい予算書」を作成しますという事だが、決算書も作れないだろうか。
中村副室長	合わせて決算書も可能であれば、導入を検討していきたい。
櫻井主査	通常予算書と決算書に加えて、説明書等でさらに詳しく出している自治体もある。
伊藤委員	市広報誌では、財政状況を家計の収支に例えて説明しているが、そういったものも1つの表し方であろう。
伊藤委員	No.40については、新庁舎に隣接する「市民交流センターおあしす」との兼ね合いをどのように考えているのか。
中村副室長	おあしすの会議室は全体的に少ない状態である。
伊藤委員	No.45については、ごみの仕分けをしっかりとやっていただきたいということか。
中村副室長	市民説明会を実施したりして、市民にごみの分別を協力いただくものである。これが徹底されれば、吉川市の負担金が減少する。
伊藤委員	ごみの分別は、しっかりとやられていると思うが。

櫻井主査	雑紙の扱いがまだ不十分のように思われる。
大塚委員長	No.46の地区計画については、ディベロッパーのような業者が主体になって行うものなのか。
松井主任	これは、市の職員が中心となり、地域の住民による話し合いのなかで地区計画が策定されていくものである。
大塚委員長	そうすると、既存の住宅街に対してのものか。
松井主任	現在、進めている地域はそうである。
大塚委員長	No.44の関係で、新庁舎を防災拠点として活用するなら、もっと防災についてベースにした議論があっても良いと思う。例えば、河川沿いに市全体を1周するような遊歩道をつくり、最終的には、市役所につながるような道路があると良いと思う。
伊藤委員	吉川市の状況を見ていると可能だと思う。マスタープランにあって、整備をするなら良いが、個々の整備だけをやっているから、点にはなっているが、線にはなっていない。
大塚委員長	今回No.63までについて、一通り意見を出していただいた。本日の議論はこれまでとし、次回に、資料1の体系図についても含めて、議論を進めたいと思うがいかがか。
委員	(委員了承)
大塚委員長	では、次回の委員会では、もう一度、体系図についての意見をいただき、大柱・中柱の検討について審議していくこととする。 次回は、11月8日(土)の午後1時30分に開催とする。 ————— 《閉 会》 —————
司会(櫻井主査)	以上で本日の委員会の議事を終了とする。これをもって、平成26年度第4回行財政改革推進委員会を閉会する。
<p>以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。 平成26年10月31日</p> <p>署名委員 (大塚委員長 自署) 署名委員 (間宮副委員長 自署)</p>	